

# 平成28年度愛知県心身障害者コロニー 発達障害研究所 県民講座

## —人を診てヒトを観る— 自閉症スペクトラム障害 その臨床像・基礎研究・支援方法



平成 29 年 2 月 4 日 (土)

愛知県心身障害者コロニー  
発達障害研究所

共催 中央病院



# プログラム

13時30分 開会の辞

発達障害研究所 所長 細川 昌則

講演1 13時35分

「自閉症スペクトラム障害の臨床像-幼児期から壮年期まで-」

愛知県心身障害者コロニー中央病院 児童精神科  
医長 鈴木善統

休憩 10分

講演2 14時25分

「自閉症のゲノム変化はどこまでわかってきたのか」

愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所 発生障害学部  
部長 中山敦雄

休憩 10分

講演3 15時15分

「自閉症スペクトラム障害（ASD）のある子どもの家族への支援方法について」

愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所 教育福祉学部  
主任研究員 竹澤大史

16時00分 質疑応答

16時30分 閉会の辞

発達障害研究所 副所長 若松 延昭

# 発達障害研究所県民講座講演 I 要旨

---

## 自閉症スペクトラム障害の臨床像 幼児期から壮年期まで

愛知県心身障害者コロニー 中央病院 児童精神科 医長

鈴木 善統

---

自閉症スペクトラム障害（自閉スペクトラム症）は、社会的コミュニケーションの障害に加えて、常同運動、こだわり、興味・関心の偏り、感覚過敏・鈍麻（聴覚，触覚，味覚など）などを呈する症候群です。その中には、これまで使用されてきた診断名である自閉症（自閉性障害）、アスペルガー症候群（アスペルガー障害）、非定型自閉症（特定不能の広汎性発達障害）などが含まれます。

昭和 45 年（1970 年）に開院した愛知県心身障害者コロニー中央病院の児童精神科部門には、これまで 46 年にわたる診療実績があります。受診する患者は、年齢が 2 歳から 60 歳代と幅広く、初めて受診する患者の約半数が自閉症スペクトラム障害と診断されます。また、知的障害を伴った自閉症スペクトラム障害患者を受け入れ可能な病棟があることから、障害の程度を問わず多くの患者を診療してまいりました。

今回は、当院における自閉症スペクトラム障害の臨床像を年代ごとに紹介します。多くの困難を抱えた患者がいる一方で、障害の程度にかかわらず生き生きと過ごす姿も多く見られ、その一端を感じていただけたら幸いと考えております。

### 講師略歴

2001年 産業医科大学医科大学医学部 卒業

産業医科大学附属病院、北九州市立八幡病院などで、新生児科医、小児救急医として勤務。その後、八幡厚生病院、あいち小児保健医療総合センターで、精神科医、児童精神科医として勤務。

2011年 愛知県心身障害者コロニー 中央病院 児童精神科医長

## 発達障害研究所県民講座講演Ⅱ要旨

---

### 自閉症のゲノム変化はどこまでわかってきたのか

愛知県心身障害者コロニー 発達障害研究所 発生障害学部長

中山 敦雄

---

自閉症の発症に遺伝的素因が大きく影響することは40年前から指摘されてきました。遺伝的素因、つまり持って生まれた自閉症になりやすい、あるいはなりにくい要因とは何でしょうか？ それは各人が持つ遺伝情報の中にあります。2003年に完了したヒトゲノム計画により遺伝情報の本態であるヒトゲノムが解読されました。ヒトゲノムは一人のヒトが持つ30000個程度の遺伝子を1セットと見なした呼び名であり、遺伝情報はヒトゲノムに暗号として保存されています。遺伝情報のほとんどは全てのヒトに共通しています。しかし人それぞれにごくわずかな違いがあり、これが個性を生み出します。様々な病気のなりやすさ（疾患感受性）もこの個性の一部です。そして2000年以降はゲノム解析技術が急速に進歩し、自閉症のヒトとそうでないヒトの遺伝情報を詳しく比べてみるのが可能になりました。その結果、自閉症のヒトのみに見つかる遺伝情報の違いがだいぶ分かってきました。本講演では細かなゲノム変化の学術的な説明は極力避けて、ゲノム研究の進展により科学者や医者が自閉症をどのように理解しているのかをお伝えしようと思います。

#### 講師略歴

- 1984年 名古屋大学医学部卒業
- 1990年 名古屋大学医学部病理学講座助手
- 1992年 米国NIH留学（1995年まで）
- 2000年 名古屋大学医学部病理学講座助教授
- 2002年 愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所発生学部長

## 発達障害研究所県民講座講演Ⅲ要旨

---

### 自閉症スペクトラム障害（ASD）のある子どもの家族への支援方法について

愛知県心身障害者コロニー 発達障害研究所  
教育福祉学部 発達教育研究室主任研究員  
竹澤 大史

---

自閉症スペクトラム障害のある子どもへの支援において、最も身近な存在である家族への支援は大きな意義を持っています。子どもへの支援と同様に、家族支援においても、ライフステージに沿った早期からのアプローチが重要だと考えられています。特に幼児期には診断告知や集団参加が始まるため、家族の不安やストレスが高まりやすく、これらを軽減するような支援が求められます。また、家族の障害受容や家族同士の支え合いを支援していくことも重要だと考えられています。

家族への早期支援方法としては、障害に関する知識やそれに基づく育児方法の伝達を基本とする心理教育的なアプローチや、子どもの行動に注目したペアレントトレーニングなどがあります。また、障害のある子どもの家族同士のエンパワーメントを重視したピアカウンセリングも有効な支援方法だと考えられています。今回は、これらの支援方法について、愛知県心身障害者コロニーで実施している実践研究の内容を中心にお話しします。

#### 講師略歴

- 1998年 滋賀大学大学院教育学研究科修了
- 2004年 インディアナ大学大学院教育学研究科修了
- 2004年 愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所

<メ モ>

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....